

平成7年度 結核・感染症サーベイランス事業等からのウイルス検査結果

微生物課 ウイルス担当

本年度、当所に搬入された検体は検査定点医療機関の患者121名・144検体（結核・感染症サーベイランス事業）、および別に依頼しておいた検査定点以外の患者47名・50検体であった。ウイルスの分離と検出は細胞培養（主にRD-18S・BGM・Vero・HEp-2）、電子顕微鏡観察（EM）、ラテックス凝集法（LA）等を用いて行った。その結果、患者168名・194検体から72株のウイルスが分離または検出された。検体数に対するウイルス分離率は37.1%と昨年度よりやや減少したが、ほぼ例年どおりであった。

搬入された検体の臨床診断名については、昨年度に比べ手足口病やインフルエンザ様疾患が増え、原因にウイルスが疑われる食中毒や無菌性髄膜炎は減少した。特に手足口病の増加と無菌性髄膜炎の減少は全国的な傾向にあった。表1に本年度当所に搬入された検体のウイルス検査結果を示した。ウイルスが分離・検出された検体の内訳は咽頭うがい液より37株、同様に咽頭ぬぐい液15

株・ふん便11株・髄液5株・陰部尿道頸管擦過物4株であった。ウイルス分離検体と臨床診断名には関連があり、咽頭うがい液からのウイルス分離例は全てインフルエンザ様疾患の患者からであり、同様に髄液からの分離例は全て無菌性髄膜炎の患者、陰部尿道頸管擦過物からの分離例は全て陰部ヘルペスの患者であった。

表2に本年度のウイルス分離状況を示した。ウイルスの分離は季節的に夏と冬とに比較的集中し、特に冬のインフルエンザが顕著であった。検査方法別のウイルス分離・検出状況は細胞培養66株・電子顕微鏡観察6株（うちラテックス凝集法の併用3株）で、細胞別のウイルス分離ではMDCK（45株）・HEp-2（18株）・RD-18S（13株）・BGM（9株）・Vero（8株）の順に多かった。総じてアデノウイルスはHEp-2から、エコーウイルスはRD-18Sから、ヘルペスウイルスはVeroから容易に分離される傾向にあった。

本年度の当所における分離ウイルスの特徴として、無

表1 平成7年度当所搬入検体のウイルス検査結果

臨床診断名	患者数	検体数	分離検体名	分離ウイルス名(分離株数)	陰性数
麻疹様疾患	1	1			1
流行性耳下腺炎	1	1			1
感染性胃腸炎	7	7	ふん便	コクサッキーA16型(1)・小型球形ウイルス様粒子(1)	5
乳児嘔吐下痢症	8	9	ふん便	ロタウイルス様粒子(5)	4
手足口病	10	11	咽頭ぬぐい液	アデノ4型(2)	9
ヘルパンギーナ	3	5	咽頭ぬぐい液	コクサッキーA4型(1)	4
インフルエンザ様疾患	92	94	咽頭うがい液	インフルエンザAH1型(34)・インフルエンザAH3型(1)・同定不能(2)	
			咽頭ぬぐい液	インフルエンザAH1型(10)・アデノ1型(2)	45
咽頭結膜熱	2	3	ふん便	アデノ3型(1)	2
流行性角結膜炎	1	1			1
無菌性髄膜炎	20	28	ふん便	エコー7型(1)・エコー18型(1)・エコー25型(1)	
			髄液	エコー7型(3)・エコー18型(1)・エコー25型(1)	20
脳・脊髄炎	5	11			11
ウイルス肝炎	1	1			1
陰部ヘルペス	10	11	陰部尿道頸管擦過物	単純ヘルペス1型(1)・単純ヘルペス2型(3)	7
その他	7	11			11
合計	168	194			122

菌性髄膜炎から新たにエコー7型が分離された事があげられる。エコー7型による無菌性髄膜炎は、1986年に全国的な大流行があった後、1987年からは局地的流行に変化した。九州でも過去に熊本県・大分県・鹿児島県

で分離報告があるのみで、福岡県下では1987～1994年まで報告されていなかった。また前年度に引き続きインフルエンザが流行し、患者92名・94検体が搬入され、A・H1型44株、A・H3型1株が分離された。

表2 ウイルス分離状況

分離ウイルス ^(注)	月別ウイルス分離状況												分離数	検査法別ウイルス分離状況						
														細胞培養						
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		RD-18S	BGM	Vero	HEp-2	MDCK	EM	LA
コクサッキーA16型				1									1				1			
小型球形ウイルス様粒子								1					1						1	
ロタウイルス様粒子	2										3		5						5	3
アデノ4型				2									2				2			
コクサッキーA4型											1	1	1							
インフルエンザAH1型								37	5	2			44						44	
インフルエンザAH3型										1			1						1	
同定不能								1			1		2	2	1			2		
アデノ1型										2			2				1	2		
アデノ3型	1												1					1		
エコー7型		1	1		2								4	4	2	2	3			
エコー18型							2						2	2	2	1	2			
エコー25型				2									2	2	1		2			
単純ヘルペス1型				1									1	1	1	1	1	1		
単純ヘルペス2型										1	2		3	1	2	3	2			
合計	3	1	1	6	2	2	—	—	39	9	8	1	72	13	9	8	18	45	6	3

RD-18S・BGM・Vero・HEp-2・MDCK：株細胞名

EM：電子顕微鏡観察

LA：ラテックス凝集法

注)：表1の臨床診断名順に分離ウイルスを記載